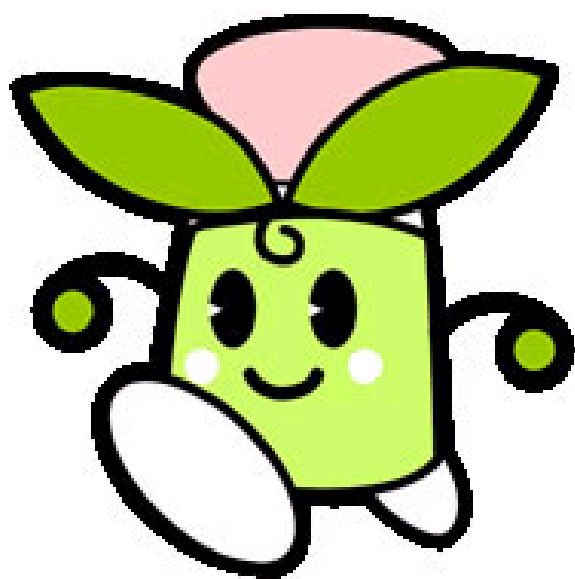


一般廃棄物処理事業概要

平成 30 年度版
(令和元年度作成)



生駒市環境保全課

目次

第1章	生駒市の概要	
第1節	生駒市の位置	1
第2節	生駒市の沿革	1
第3節	生駒市の変遷	2
第4節	人口及び世帯数	2
第2章	環境保全課の概要	
第1節	環境保全課の組織図	3
第2節	人員	3
第3節	環境保全課の事務分掌	4
第3章	予算・決算	
第1節	令和元年度清掃費予算額(当初)	5
第2節	平成30年度清掃費決算額	5
第3節	ごみ処理コスト	6
第4節	令和元年度収集運搬等委託契約状況	7
第4章	一般廃棄物処理基本計画	8
第5章	ごみ処理事業	
第1節	ごみ処理の現況	9
第2節	ごみの収集の概要	10
第3節	清掃リレーセンターの概要	14
第4節	清掃センターの概要	15
第6章	ごみ減量と再資源化対策	
第1節	ごみ減量等への取り組み	17
第2節	ごみ減量化施策	18
第7章	その他ごみ処理に関する事業	22
第8章	し尿処理事業	
第1節	し尿処理の概要	24
第2節	エコパーク21の概要	25

第1章 生駒市の概要

第1節 生駒市の位置

生駒市は、近畿のほぼ中央に位置し、京都府の京田辺市・精華町、奈良県の奈良市・大和郡山市・斑鳩町・平群町、大阪府の東大阪市・大東市・四條畷市・交野市・枚方市に接している。

面積は 53.18k m²、市域は、東西 8.0 km、南北 15.0 km の細長い形状をしており、西には主峰・生駒山(642m)を中心とした生駒山脈が南北に走り東には矢田丘陵とが南北に併走しており、中央には竜田川が南流して、いわゆる「生駒谷」を形成する、美しい自然環境の中にあるまちである。

大阪市中心部（大阪難波駅）、奈良市中心部（近鉄奈良駅）からはそれぞれ 20 km、12 km 程度の距離にあり、近鉄奈良線を利用してそれぞれ 21 分、15 分の所要時間で到達できる。



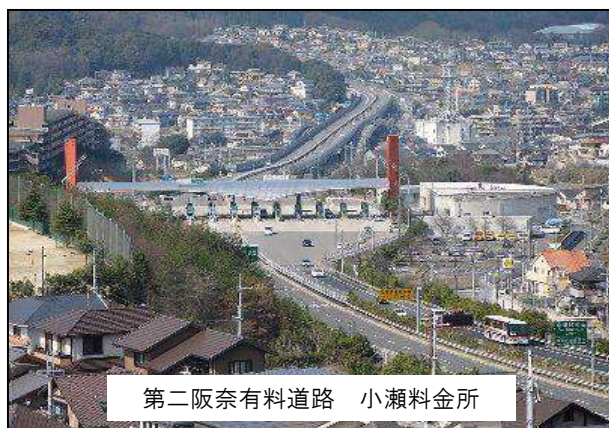
第2節 生駒市の沿革

生駒市は、明治 22 年の町村制施行時の 3 か村（南生駒村・北生駒村・北倭村）のうち、北生駒村が大正 10 年に町制(生駒町)をしき、昭和 30 年 3 月 10 日に南生駒村を、昭和 32 年 3 月 31 日に北倭村を合併。

その後、大都市大阪のドーナツ化現象により急激な人口増加が続き、都市的諸条件をも備え、昭和 46 年 11 月 1 日に人口 37,000 余人にして県下 9 番目の市となる。

平成 2 年に県内 3 番目の 10 万都市となり、平成 22 年末には 12 万人を超えた。近年は、関西における「子育てしやすいまち」としての評価も高まっている。

しかし、わが国全体の人口が平成 20 年に減少に転じたことに伴い、本市においても平成 25 年 11 月の 121,350 人をピークに人口が減少に転じ、今後、本格的な人口減少と少子高齢化のさらなる進行が見込まれている。このような人口構造の変化が想定されることから、大都市への通勤・通学者が多く住む「住宅都市」という基本的な方向性を受け継ぎながら、大都市に通勤・通学するという暮らしに加えて、日中の多くの時間を市内で過ごす暮らし、生駒で住み・働く暮らしなど、多様な生き方や多様な暮らし方（生活スタイル）に対応した都市へとまちづくりを進めることにより、「ベットタウン」から脱却し、「生駒に住みたい」、「生駒にいつまでも住み続けたい」と思われるまちを築いていくことをめざしている。



第二阪奈有料道路 小瀬料金所



近鉄けいはんな線 生駒駅

第3節 生駒市の変遷

(平成31年4月1日現在)

事 項	年 月 日	合併町村名	面積(k m ²)	総面積(k m ²)
北生駒村	明治22年4月1日	—	13.91	—
南生駒村			13.24	—
北倭村			25.43	—
生駒町制施行	大正10年2月11日	—	13.91	—
第一次編入合併	昭和30年3月10日	生駒郡南生駒村	13.24	27.15
第二次編入合併	昭和32年3月31日	生駒郡北倭村	25.43	52.58
生駒市制施行	昭和46年11月1日	—	—	52.58
国土地理院改訂値	平成元年11月10日	—	—	53.18

第4節 人口及び世帯数

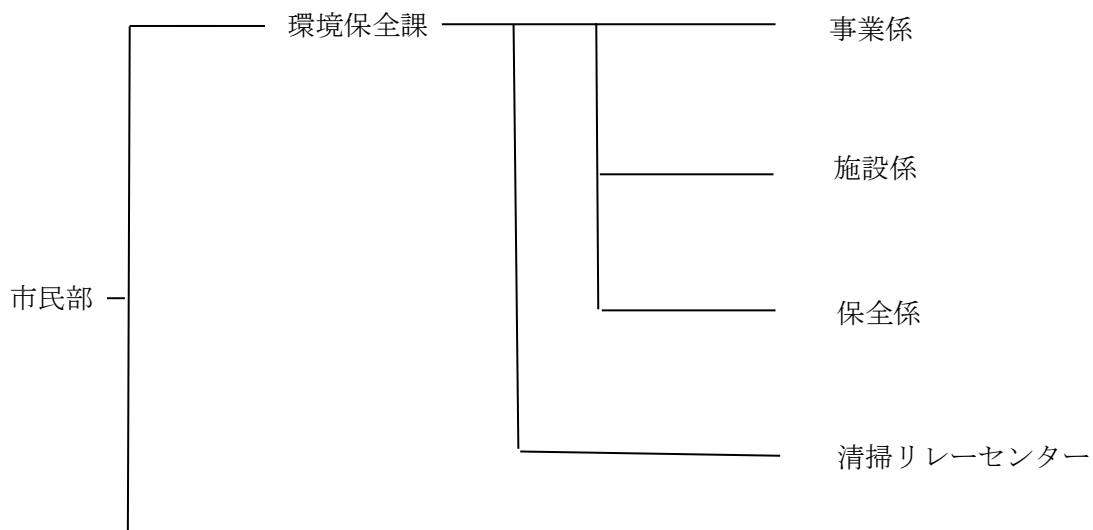
住民基本台帳・外国人登録を含む。(各年度4月1日現在)

年 度	人 口			世帯数	世帯当人員
	総 数	男	女		
平成21年度	118,722	56,827	61,895	45,274	2.62
平成22年度	119,690	57,346	62,344	46,167	2.59
平成23年度	120,134	57,465	62,669	46,782	2.57
平成24年度	120,959	57,749	63,210	47,549	2.54
平成25年度	121,031	57,723	63,308	47,965	2.52
平成26年度	121,185	57,736	63,449	48,477	2.50
平成27年度	120,893	57,586	63,307	48,784	2.48
平成28年度	120,835	57,602	63,233	49,184	2.46
平成29年度	120,741	57,492	63,249	49,672	2.43
平成30年度	120,336	57,266	63,070	49,974	2.41
令和元年度	119,795	56,960	62,835	50,171	2.39

第2章 環境保全課の概要

第1節 環境保全課の組織図

(平成31年4月1日現在)



第2節 人 員

(平成31年4月1日現在)

市民部	部長	1名	計 1名
環境保全課	課長	1名	計 16名 (再任用含む)
	課長補佐	1名	
	係長・主査	5名	
	係員	9名	
清掃リレーセンター	所長	1名	計 10名 (再任用含む)
	係長・主査	4名	
	技能職員	5名	

第3節 環境保全課の事務分掌

【事業係】

一般廃棄物事業の総合計画・一般廃棄物処理施設の整備計画の企画及び策定・一般廃棄物処理基本計画及び実施計画の策定・ごみ減量化の促進・清掃リレーセンターの調整に関すること。

一般廃棄物処理の委託(清掃リレーセンターに係るものを除く)・一般廃棄物の収集、運搬体制等・一般廃棄物処理の委託業者の指導監督・一般廃棄物処理業の許可及び指導監督・一般廃棄物の再生利用指定・一般廃棄物の処理手数料(清掃リレーセンターに係るものを除く)・一般廃棄物事業の資料収集及び調査研究・一般廃棄物処理事業の協力団体の育成指導・資源回収の実施団体の育成指導・清掃思想の普及向上・し尿くみ取り申請の受付に関すること。

【施設係】

清掃センター及びエコパーク 21・ごみの焼却処理・し尿及び浄化槽汚泥の処理に関すること。

【保全係】

自然環境及び生物の多様性の保全に係る企画調整・公害防止対策の調査研究及び指導並びに普及啓発・公害の調査及び測定並びに各部門との連絡調整・竜田川流域生活排水対策連絡協議会・環境保全に関する協定書の締結・環境美化の推進・屋外広告物の簡易除去・墓地等の経営の許可等・市営火葬場・埋火葬の許可(市民課の届出に係るものを除く)・防犯灯及び街路灯・愛がん動物の適正管理・狂犬病予防法(昭和25年法律第247号)による犬の登録等・犬、猫等の死体処理及び手数料・そ族、昆虫等の駆除の指導・学研高山地区環境保全対策委員会に関すること。

【清掃リレーセンター】

所管に係るごみの処理・ごみの処理手数料(環境保全課事業係に係るものを除く)・清掃リレーセンターの管理及び運営に関すること。

アームロール車



第3章 予算・決算

第1節 令和元年度清掃費予算額（当初）

	項 目	予算額（千円）
歳入	ごみ処理手数料	273,436
	し尿処理手数料	14,413
	ペットボトル等売却収入	34,814
	汚泥処理負担金	59,222
	その他	2,939
	合 計	384,824

	項 目	予算額（千円）
歳出	清掃総務費	147,795
	ごみ処理費	893,376
	ごみ処理施設費	827,763
	し尿処理費	100,925
	し尿処理施設費	292,112
	合 計	2,261,971

第2節 平成30年度清掃費決算額

	項 目	決算額（千円）
歳入	ごみ処理手数料	282,688
	し尿処理手数料	14,421
	ペットボトル等売払収入	33,996
	汚泥処理負担金	31,180
	その他	3,129
	合 計	365,414

	項 目	決算額（千円）
歳出	清掃総務費	140,256
	ごみ処理費	850,194
	ごみ処理施設費	806,967
	し尿処理費	99,938
	し尿処理施設費	285,382
	合 計	2,182,737

第3節 ごみ処理コスト

項目		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
処理経費	収集運搬・処理委託料、補助金、人件費等(円) ※1	968,394,547	974,642,699	965,381,538	969,633,716	990,449,351
	ごみ排出量(t)	38,187	33,365	33,166	33,292	33,419
	1tあたりの経費(円)	25,359	29,210	29,108	29,126	29,637
中継経費	経費(円)	122,622,560	114,457,416	122,959,191	121,535,779	119,627,575
	中継ごみ量(t)	5,042	3,701	3,495	3,223	3,360
	1tあたりの経費(円)	24,320	30,926	35,181	37,709	35,603
焼却経費	経費(円)	692,088,508	722,719,603	695,417,692	685,960,857	687,339,316
	焼却ごみ量(t)	35,783	31,578	30,063	30,313	31,033
	1tあたりの経費(円)	19,341	22,887	23,132	22,629	22,149
総経費(円)		1,783,105,615	1,811,819,718	1,783,758,421	1,777,130,352	1,797,416,242
歳入 (ごみ処理手数料等)		189,226,019	299,627,823	297,872,003	310,333,310	319,812,782
歳出 (総経費－歳入)		1,593,879,596	1,512,191,895	1,485,886,418	1,466,797,042	1,477,603,460
ごみ発生量(t) (集団資源回収含む)		41,066	37,257	37,024	36,957	36,849
1tあたりの総経費 (円) ※2		38,813	40,588	40,133	39,689	40,099
ごみ排出量 (t)	家庭系	29,523	24,423	23,999	24,292	24,523
	事業系	8,664	8,942	9,167	9,000	8,896
	合計	38,187	33,365	33,166	33,292	33,419
1日あたりの排出量(t)		104.6	91.2	90.9	91.2	91.6
1人1日あたりの排出量(g)		865	754	753	758	764
備 考		H26.2 から家庭系指定ごみ袋の販売開始	H27.4 から家庭系ごみ有料化			

※1 処理経費には集団資源回収の補助金を含む。

※2 $1tあたりの総経費 = 歳出(総経費 - 歳入) / ごみ発生量(集団資源回収含む)$

第4節 令和元年度収集運搬等委託契約状況

件名	契約手法	契約日	業務期間		契約金額(税込)	
			自	至	金額	令和元年度
可燃物収集運搬及びまごころ収集業務	随契(注)	H30.1.11	H30.4.1	R5.3.31	2,026,476,370円	403,813,390円
プラスチック製容器包装収集運搬及び中間処理業務	随契(注)	H30.1.11	H30.4.1	R5.3.31	収集運搬 381,226,180円	75,966,460円
					中間処理 48,000円/t	
大型ごみ・燃えないごみ収集運搬及び中間処理業務	随契(注)	H30.1.11	H30.4.1	R5.3.31	377,613,792円	75,246,624円
資源物等収集運搬及び中間処理業務	随契(注)	H30.1.11	H30.4.1	R5.3.31	732,397,992円	145,944,024円
し尿収集及び運搬業務	随契	H31.4.1	H31.4.1	R2.3.31	98,189,564円	98,189,564円

※ 契約手法のうち随契(注)は、公募型プロポーザル方式により業者選定

※ 契約金額のうち「金額」については、消費税が平成30年度は8%。令和元年10月からは10%。

第4章 一般廃棄物処理基本計画

1. 策定根拠

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条第1項に基づき策定（「市町村は、当該市町村の区域内の一般廃棄物の処理に関する計画（「一般廃棄物処理計画」）を定めなければならない。」）。

2. 本市計画

①名称 生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（ごみ半減プラン）

②策定 平成23年（2011年）5月

③計画目標年度

平成23年度（2011年度）を初年度とし、10年後の令和2年度（2020年度）を最終目標年度とする。計画期間内でも、社会経済情勢や廃棄物処理・資源化に関する法律・諸制度が大きく変化した場合、また、本市の実態と本基本計画の内容とに差異が生じた場合などにおいては、適宜計画を見直す。

計画の目標年度

平成23年度 (2011) 初年度	24年度 (2012)	25年度 (2013)	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020) 最終目標
← 計画期間 →									

3. 基本理念

すてることをやめて、循環型社会の構築を目指します

4. 基本方針

- ①市民・事業者・収集業者・行政のごみ減量・資源化に対する理解を深め、実践行動を共に起こす
- ②家庭系ごみの減量・資源化の推進
- ③事業系ごみの減量・資源化の推進
- ④ごみ半減の実現に向けた処理システムの構築

5. ごみ半減実現のための重点施策

- ①“もったいない運動”の展開による発生抑制の推進
- ②プラスチック製容器包装分別収集の実施
- ③家庭系ごみ中の資源化可能な紙類削減の取り組みの推進
- ④家庭系ごみへの有料制導入
- ⑤バイオマス（生ごみ・剪定枝等）の資源化
- ⑥事業系ごみ有料指定袋制の導入
- ⑦事業系ごみの減量・資源化促進のための取り組みの拡充

6. PDCAサイクルによる計画の進行管理

計画を円滑・着実に、また、より高次の取り組みの展開を目指すため、Plan（計画の策定）、Do（実行）、Check（評価）、Act（見直し）のいわゆるPDCAサイクルに基づく計画の適切な進行管理を行う。

7. 進捗状況の公表

本基本計画の進捗状況に関する点検・評価の結果は、生駒市環境審議会に報告するとともに、市の広報やホームページ等を活用して、市民に公表していく。

第5章 ごみ処理事業

第1節 ごみ処理の現況

本市においては、昭和48年度から家庭ごみの分別収集（可燃ごみ、不燃ごみ）を開始し、昭和59年度から有害ごみ・粗大ごみの収集も始め、平成8年度より資源ごみ（びん・缶、ペットボトルの2種類）をあわせて6種分別を開始。平成22年度には、燃える大型ごみの電話リクエスト収集、平成23年度からは、燃えないごみについても電話リクエスト収集を開始した。また、平成23年度からは、プラスチック製容器包装の分別収集を開始するとともに、業務の効率化を図るため、燃えるごみの収集ルートを変更した。また、平成27年4月には、家庭系ごみの有料化（可燃ごみ、不燃ごみ、大型ごみ）が開始された。燃えるごみについては、委託業者・許可業者による収集は清掃センターに搬入され、清掃リレーセンターに市民等によって持ち込まれたごみについては、アームロール車にて清掃センターに搬入し、焼却処理を行っている。

【収集・運搬関連】

年 度	実 施 過 程
昭和48年度	分別収集開始（可燃物・不燃物）
昭和59年度	有害ごみ・粗大ごみの収集開始
平成8年度	資源ごみ分別開始（びん・缶、ペットボトル）
平成22年度	燃える大型ごみの電話リクエスト収集開始
平成23年度	燃えないごみの電話リクエスト収集開始 プラスチック製容器包装分別開始 効率化のため全市を対象に可燃ごみの収集ルートを見直し 紙類、古着、くつ、かばんの行政回収をスタート
平成27年度	家庭系ごみ有料化（可燃ごみ、不燃ごみ、大型ごみ）

【処理関連】

年 度	実 施 過 程
昭和43年度	塵芥焼却場完成 30t/日 固定式バッチ炉
昭和48年度	集じん機設置
昭和49年度	再燃焼装置設置
平成3年度	清掃センター完成 110t×2炉/日 全連続流動床式焼却炉
	清掃リレーセンター（破砕設備付）完成
平成14年度	清掃センターダイオキシン類排出削減恒久対策工事完成
平成21年度	清掃センター粗大ごみ破砕設備設置工事完了
平成23年度	清掃センターの運転管理を長期包括業務委託により10年間の契約締結

第2節 ごみの収集の概要

家庭から排出されるごみは、7種（燃えるごみ、プラスチック製容器包装、びん・缶、われもの、ペットボトル、大型ごみ・燃えないごみ、有害ごみ）に分別し、委託業者によって収集を行っている。燃えるごみ以外のごみについては、収集後に選別、圧縮、梱包等の中間処理を行い、その後、民間処理業者等により資源化している。

1. 燃えるごみ（週2回収集）（ステーション数 約4,500ヶ所）

家庭から出る生ごみや紙くず等の燃えるごみは、市内を（月・木）、（火・金）、（水・土）の3コースに分けて週2回ステーション方式で民間業者に委託し収集を行っている。

なお、平成23年10月より収集ルート在全市見直しに伴い、清掃リレーセンターに搬送していたごみを清掃センターに直送している。

2. プラスチック製容器包装（週1回収集）（ステーション数 約1,800ヶ所）

食料品や日用品を購入した時に使われているプラスチック製の「容器」や「包装」の収集。例えば、商品のカップ・袋、商品を包んでいるフィルム、レジ袋など。平成23年9月までは、モデル地区（西松ヶ丘・ひかりが丘自治会）で収集を実施。同年10月より全市収集を開始。収集したプラスチック製容器包装は、中間処理を行った後、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会に引渡し、リサイクルしている。

【再資源化】

排出方法	中間処理	再資源化
プラマークを目印に排出	選別・圧縮・梱包	建築資材や各種プラスチック製品などに再生

3. びん・缶、われもの（月2回収集）（ステーション数 約1,800ヶ所）

【再資源化】

資源物	排出方法	中間処理	再資源化手法
びん	びん・缶をまとめて排出	色別に分別	カレット状に粉砕し、ガラスびんに再生
缶		アルミとスチールに分別	原材料として使用
われもの	陶磁器製品とガラス製品に分別	選別	食器の原材料や埋め立て材等に再生

4. ペットボトル（月2回収集）（ステーション数 約1,800ヶ所）

【再資源化】

排出方法	中間処理	再資源化
ラベル、キャップをはずし洗浄	選別・圧縮・梱包	選別・粉砕・洗浄し、フレーク状にした後、繊維に加工し、服等に再生

5. 大型ごみ・燃えないごみの電話リクエスト収集

平成 22 年 9 月末までは、燃える大型ごみは、年 3 回ステーション収集により実施。

大型のものや重いものをステーションまで運ぶのが大変なことや、収集間隔が約 4 ヶ月であったことから、申し込みによる戸別収集を切望される声が多く、平成 22 年 10 月から電話によるリクエスト収集を開始した。また、燃えないごみも、平成 23 年 4 月から電話リクエスト収集を開始した。

【電話リクエスト収集のメリット】

- ①電話申し込みによりその都度排出が可能
- ②玄関先まで収集にきてもらえる
- ③月に 1 回 10 点まで申し込みが可能

【申込条件】

- ① 1 ヶ月に 1 回
- ② 1 回の申し込みにつき 10 点（H23 年 4 月より 5 点から 8 点、H24 年 10 月より 10 点に）
- ③ 排出場所は原則、自宅前（収集車両が近づける場合）

6. 有害ごみ（乾電池、蛍光管等）（月 2 回収集）（ステーション数 約 1,800 ヶ所）

収集された乾電池、蛍光管はドラム缶に詰替え処理。業者に引き渡し。

7. ごみの分別収集量及び処理実績

(単位:t)

年 度	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
人口	119,795	120,336	120,741	120,835
世帯数	50,171	49,974	49,672	49,184
総発生量 (A)	36,849	36,957	37,024	37,255
集団資源回収 (B)	3,430	3,666	3,858	3,890
排出量	33,419	33,292	33,166	33,365
家庭系ごみ	24,523	24,292	23,999	24,423
可燃ごみ (収集)	18,233	18,420	18,251	18,355
粗大ごみ (収集) (可燃)	480	307	274	339
可燃ごみ収集時の古紙類	1,722	1,751	1,666	1,497
家庭 資源・不燃ごみ残渣 可燃 (推計)	191	271	251	279
粗大ごみ (収集) (不燃)	210	164	143	181
有害ごみ (不燃に含んでいない)	50	46	36	40
家庭 資源・不燃ごみ残渣 不燃 (推計)	188	128	127	186
家庭 資源ごみ (ビン・缶・ペットボトル・プラ)	2,210	2,181	2,199	2,117
拠点回収(陶磁器・インクカートリッジ・小型家電)	46	35	28	24
家庭系 (個人リレー持込) (推計)	1,194	989	1,024	1,404
家庭可燃ごみ (センター直接)				
事業系ごみ	8,896	9,000	9,167	8,942
事業可燃ごみ (収集)	6,154	6,252	6,585	6,249
事業 資源・不燃ごみ残渣 可燃 (推計)	11	13	10	10
事業可燃ごみ (センター直接)	395	358	263	244
事業不燃ごみ (収集)	15	16	12	10
事業 資源・不燃ごみ残渣 不燃 (推計)	15	10	10	16
事業 資源ごみ (ビン・缶・ペットボトル・プラ)	140	117	111	116
事業系 (事業所リレー持込)	2,166	2,234	2,176	2,297
センター焼却量	31,033	30,313	30,063	31,578
焼却残渣埋立 (センター、ばいじん)	2,791	2,754	2,763	3,064
焼却残渣 (センター、大型金属屑)	75	72	76	74
残渣埋立 (リレーセンター) マツユキ				
残渣埋立 (リレーセンター) 三重	153	67	111	250
残渣埋立 (リレーセンター) フェニックス	126	93	83	227
資源ごみ (C)	4,887	4,824	4,833	4,837
資源化率 ((B) + (C)) / (A)	22.6%	23.0%	23.5%	23.4%
1人1日あたりごみ量 (家庭+事業)	764.3	758.0	752.6	754.4
1人1日あたりごみ量 (家庭)	560.8	553.1	544.6	552.2

※人口及び世帯数は属する年度の3月31日

8. 資源ごみの再資源化実績

(単位:kg)

年 度	30 年度	29 年度	28 年度	27 年度
びん(無色)	338,280	381,170	402,350	363,540
びん(茶色)	208,760	210,520	222,470	227,700
びん(その他)	211,840	170,510	171,450	174,270
ペットボトル	262,854	209,800	211,012	209,124
スチール缶	138,619	153,471	142,235	179,591
アルミ缶	120,112	110,693	98,434	94,290
鉄	253,260	193,460	183,160	213,310
ダンボール (収集)	431,850	431,420	408,180	385,340
新聞紙 (収集)	601,380	762,830	829,910	759,420
雑誌 (収集)	401,070	262,690	148,660	142,520
ウエス (収集)	149,190	129,170	108,990	84,690
かばん (収集)	11,740	9,840	7,770	5,600
くつ (収集)	28,310	24,460	21,150	15,250
ミックスペーパー (収集)	98,100	130,160	141,440	104,210
プラ 全市収集 中間処理量	885,450	880,500	879,400	865,000
プラ排出時のごみ袋	19,070	27,390	25,950	
エコパーク事業系生ごみ	422,610	448,770	562,330	576,450
リレー持込古紙	58,560	63,220	50,730	49,310
リレー持込陶磁器製食器				
リレー持込ガラス製食器				
有害ごみ(乾電池・蛍光灯)	49,810	46,070	36,426	40,366
陶磁器拠点回収	14,599	9,614	10,488	11,038
ガラス製食器拠点回収	4,401	2,537	2,877	2,906
リユース市	563	3,840	5,412	
陶磁器くずガラスくず	117,410	97,940	105,290	216,810
ガラスびん残渣	47,970	56,010	51,490	112,280
インクカートリッジ (拠点回収)	150	165	139	113
小型家電 (拠点回収)	11,101	7,827	5,292	3,735
計	4,887,059	4,824,076	4,833,035	4,836,863

第3節 清掃リレーセンターの概要

本施設は、清掃センターの整備に合わせ、ごみ収集運搬の効率性及び市民・事業者のごみ搬入の利便性を確保する観点から、ごみ中継施設として整備したが、平成24年4月から収集ごみは清掃センターへ直送となったため、現在は市民・事業者から持ち込まれたごみの受け入れを行っている。ごみは受入設備にて受け、ごみ圧縮設備にてコンテナに積み、アームロール車にて、清掃センターへ搬送される。

1 建設概要			
(1)プラント工事	請負業者	新明和工業(株)関西支社	請負金額 585,040,000円
	工期	平成2年5月9日～平成3年3月15日	
(2)土木建築工事	請負業者	(株)森本組 奈良営業所	請負金額 553,110,000円
	工期	平成2年6月21日～平成3年3月15日	
2 施設概要			
(1)敷地面積	約10,000㎡		
(2)延床面積	1,970㎡		
(3)処理能力	120t/日		
(4)主要施設	①受入供給設備	搬入されたごみを受入れ貯留し、油圧機構により、ごみをコンパクタへ円滑に供給する。ホッパ1基(約75m ³)	
		破碎設備1基(往復動式圧縮せん断破碎機 4.7t/日)	
	②ごみ圧縮設備	ホッパより供給されたごみを油圧機構により、コンテナへ詰め込み圧縮する。コンパクタ1基(50t/H)、油圧ユニット1基	
	③搬出設備	コンテナ積替装置1基(コンベア式コンテナ5台設置型) コンパクタがコンテナにごみを詰め込む間、コンテナを搭載しておくとともに、接続しているコンテナが満量になったとき、空コンテナとの入替えを円滑に行う。	
	④コンテナストック台	4台 コンパクタにより満量にされたコンテナを搬出車にて積み出されるまでの間仮置きする。	
	⑤計量設備	トラックスケール1基(20t)	
⑥集じん・脱臭設備	集じん装置 1基(自動巻取型ロールフィルター方式)吸引空気中の粉じんを分離するもの。		
	脱臭塔1基(乾式活性炭吸着塔型)吸引空気の臭気を脱臭するもの。活性炭(ヤシガラ破碎炭)使用。		
	散水装置 1基(高圧噴霧方式)		
(5)保有車両	アームロール車(10t) 3台 ダンプ 1台 ホイールローダー 1台 ミニショベル 1台 フォークリフト 2台 乗用車 1台 軽四ダンプ 1台		

第4節 清掃センターの概要

回転数制御付誘引送風機を採用し、省力化・省エネ化を図った流動床式焼却炉として平成3年3月に竣工し、燃焼ガスの余熱を回収し、白煙防止や生駒山麓公園施設への熱供給を行っている。国定公園内のため半地下式の施設として、煙突をはじめ建屋の美観にも十分留意し、環境と調和した施設としている。

また、平成12年度からダイオキシン類排出削減恒久対策工事に着手し、ろ過式集じん器、触媒反応塔などを整備し、十分な排ガス対策を行うとともに、加熱脱塩素化処理装置により、飛灰中のダイオキシン類をも削減し、より環境にやさしい施設として平成14年3月に生まれ変わった。

1 建設概要		
(1)施設新設工事	請負業者	神鋼・大成 生駒市清掃センター建設工事共同企業体
	請負金額	3,749,000,000円 土木造成工事費 494,000,000円 建屋工事費 1,318,000,000円 プラント工事費 1,937,000,000円
	工期	昭和63年9月21日～平成3年3月15日
(2)ダイオキシン類排出削減恒久対策工事	請負業者	(株)神戸製鋼所
	請負金額	2,596,650,000円 排ガス対策工事 1,927,695,000円 飛灰対策工事 668,955,000円
	工期	平成12年9月20日～平成14年3月31日
(3)粗大ごみ破碎設備設置工事	請負業者	神鋼環境メンテナンス(株)
	請負金額	305,550,000円
	工期	平成20年12月22日～平成22年3月31日
2 施設概要		
(1)敷地面積	48,023 m ²	
(2)延床面積	6,994 m ²	
(3)炉型式	全連続流動床式焼却炉	
(4)処理能力	220 t / 24時間 (110 t / 24時間 × 2炉)	
(5)主要施設	①受入供給施設	ごみ計量機 1基・ごみ投入扉 4基 ごみピット 1基(2,200 m ³)・ごみクレーン 2基
	②燃焼設備	受入ホッパー 2基・破碎設備 2基 流動床式焼却炉 2基・不燃物排出装置 2基
	③燃焼ガス冷却・加熱設備	ガス冷却室 2基(排ガス温度 約900℃→450℃) 排ガス冷却用熱交換器 2基(排ガス温度 約190℃に調整)
	④排ガス処理設備	活性炭・消石灰吹込装置 2基 ろ過式集じん器 2基・触媒反応塔 2基
	⑤余熱利用設備	余熱利用空気送風機(白煙防止兼用) 2基 余熱利用空気加熱器 2基・温水発生器 2基
	⑥通風設備	押込送風機 2基・煙突 2基 誘引送風機(回転数制御) 2基・空気余熱器 2基

	⑦灰処理設備	加熱脱塩素化处理装置 1基・混練成形機 1基
	⑧灰出し設備	ダスト搬出装置一式・バンカー式・灰固化設備一式
	⑨可燃性粗大ごみ 破碎設備	堅型高速回転式破碎機 1基
	⑩その他の設備	臭気対策設備 給水設備…水道水を門前配水場よりポンプ圧送 排水設備…生駒市清掃センターは完全クロージドシステムを採用しており、施設で使用した水は施設外に排出せずに施設内で処理

第6章 ごみ減量と再資源化対策

第1節 ごみ減量等への取り組み

ごみ減量を行うために各種施策を推進し、市民のごみ減量意識の向上と排出ルールの適正化、ごみのリデュース・リユース・リサイクルの一層の推進を図っている。

- 家庭用生ごみ処理容器等購入補助
- 環境フリーマーケット
- 集団資源回収に対する補助
- 市内食品スーパーでのレジ袋有料化
- 不用品交換コーナー
- 資源ごみの分別回収（ペットボトル、びん・缶・われもの）
- 陶磁器製食器リユース・リサイクル事業
- ガラス製食器リユース・リサイクル事業
- ガラスびん類再資源化
- ミックスペーパーのリサイクル
- 新聞・雑誌等の行政回収
- 一般廃棄物処理基本計画策定（ごみ半減プラン）
- プラスチック製容器包装分別収集
- ごみ半減トライアル計画
- 事業系ごみ処理手数料の値上げ・原則指定ごみ袋制
- 家庭系ごみ有料化（平成27年4月から）
- ごみ減量市民会議
- 小型家電回収BOXの設置

第2節 ごみ減量化施策

1. 家庭用生ごみ処理容器等の購入補助

家庭からごみとして廃棄される生ごみの自己処理をすることにより、ごみの焼却量を削減するため、家庭用生ごみ処理容器等の購入費補助を行っている。

【補助金額 平成30年度】

	補助率	限度額	備考
非電動型（埋込式、密閉式、キエーロ）	3/4	75,000円	1世帯年間2個を限度とする
電動型（電力を使用するもの、機械式）	1/2	75,000円	1世帯5年間に1台を限度とする

【実績 補助件数】

年度	埋込式	密閉式	機械式	キエーロ	合計
28年度	18	6	28	5	57
29年度	19	2	32	1	54
30年度	16	1	24	1	42

2. 環境フリーマーケットの開催

市民を対象とし、家庭内の不用品を譲り合うことにより、限りある資源の有効利用を促進し、かつ、ものを大切にすることを啓発することにより、ごみの減量化を図ることを目的として、平成9年度から環境フリーマーケットを開催している。また、NPO 法人関西ワンディッシュユエイド協会の協力を得て「もったいない食器市」を開催しリユース事業の一翼を担っている。

【実績 平成30年度】

開催日	会場
6/24	北コミュニティセンター（ISTAはばたき）
9/22	ベルテラスいこまベルステージ
11/11	いこま魅力博2018会場（高山サイエンスタウン）
3/21	ベルテラスいこまベルステージ

3. 集団資源回収補助

集団資源回収補助金制度は、生活の中から排出される有価物を再資源化するために、集団回収を行う実践団体に対し補助金を交付することにより、ごみの減量、資源の有効利用等ごみ問題に関する意識向上を図り、生活環境保全に資することを目的に、回収実績に応じて1kg当たり4円を交付している。

【定義】

集団資源回収補助金の対象となる「資源」とは、新聞、雑誌、ダンボール、牛乳パック、ミックスペーパー、ウェス、かばん・くつ類とする。

【対象者】

集団資源回収を原則として月1回以上自主的に行う生駒市域内の自治会、老人会、婦人会、子ども会、育友会、PTA等の概ね10人以上で構成する団体。

【実績】

(単位：t、団体数・補助金額を除く)

年 度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
新聞	1,767	2,294	2,252	2,089	1,907
雑誌	550	794	798	778	757
ダンボール	327	449	452	437	420
ウェス	205	301	283	286	279
牛乳パック	14	19	18	19	17
かばん・くつ	9	20	23	17	13
ミックスペーパー	8	13	32	39	37
合計	2,880	3,890	3,858	3,666	3,430
団体数	151	154	154	154	153
補助金額(円)	11,516,604	15,559,648	15,431,392	14,663,668	13,721,436

※平成26年度から補助金の交付対象期間を変更したため、平成26年度の対象期間は、10ヶ月間となっている。

4. レジ袋有料化

ごみの減量化及び循環型社会の推進のため、市内食品スーパー、環境基本計画推進会議（E C O - n e t 生駒）、市の3者で、食品レジでのレジ袋の無料配布を中止する協定を締結し、平成26年6月1日から実施している。

5. 不用品交換コーナー

ごみの減量化と家庭内の不用品の有効活用を図るため、「譲ります」「譲ってください」情報を市公式ホームページ等に掲載する不用品交換コーナーを平成 18 年 7 月 1 日から開設している。

【登録できる人】

市内に住む人に限る。営利を目的とした登録は不可。

【登録できるもの】

家具、電化製品、衣料品、ベビー用品、書籍、レジャー用品、日用品、その他一般家庭用品。ただし、食料品、医薬品、貴金属、金券、自動車、バイク、動植物、不動産のほか、市が不相当と認めるものは登録不可。

【登録件数及び登録期間】

登録できる件数は一人につき 5 点まで。登録期間は 6 ヶ月間。

【登録の更新及び抹消】

登録の更新及び抹消は、申し込みや交渉成立などの状況により、適宜行っている。

6. 陶磁器製及びガラス製食器リユース・リサイクル事業

平成 20 年 7 月から、環境負荷の低減と資源の有効活用を図るため、市と市民団体、事業者との協働事業として、家庭用陶磁器製食器のリユース・リサイクル事業を行っている。定期的に公共施設及びスーパーで不用な食器の回収を行うと同時に陶器市を開催し、無料提供を行っている。リユースが困難な食器については、建築材料としてリサイクルしている。また、平成 22 年 7 月からはガラス製食器についても実施し、ごみ減量化の推進を図っている。

① 拠点回収（「もったいない食器市」）

【拠点回収場所と回収・食器市日時（平成 30 年度）】

場 所	回 収 日 時	食器市日時
南コミュニティセンター (せせらぎ)	開館日 9 時～17 時	第 1 木曜日 13 時～15 時
ディアーズコープいこま	毎月 10 日 10 時～13 時	同左
北コミュニティセンター (ISTA はばたき)	開館日 9 時～17 時	第 3 木曜日 13 時～15 時

② 持ち込み（清掃リレーセンター）

平成 21 年 4 月から、清掃リレーセンターに持ち込みされる陶磁器製・ガラス製食器についてもリユース品とリサイクル品に選別し、ごみ減量化及び再資源化の推進を図っている。陶磁器製食器でリユース可能なものについては、もったいない食器市を開催し、無料配布している。

7. 持ち込みごみのリユース市での販売

清掃リレーセンターに持ち込みされたごみのうち、古陶器、小家具、おもちゃなどリユース可能なものを取り置き、環境フェスティバル等において「リユース市」を開催し、市民に安価で販売することにより、資源の有効活用を図り、ごみの減量化を推進した。

8. 事業系ごみ処理手数料の値上げ・原則指定ごみ袋制

平成 24 年 10 月より、他市からのごみの流入の防止及び事業系ごみの減量化・資源化を図るため、事業系の一般廃棄物処理手数料を値上げし、徴収方法を原則指定袋に切り替えた。また、平成 25 年 7 月から 90ℓの可燃ごみ袋を追加した。

【事業系一般廃棄物処理手数料 一袋につき】

種 別	単 位	旧料金	新料金	
指定袋	可燃ごみ	90ℓ	—	157 円
		70ℓ	70 円	121 円
		45ℓ	45 円	76 円
		30ℓ	30 円	51 円
	資源ごみ	70ℓ	55 円	89 円
		45ℓ	35 円	55 円
		30ℓ	25 円	37 円
重 量 制	10kg	50 円	100 円	

9. 家庭系ごみ有料化

家庭系ごみの減量化、資源化を図るため、「燃えるごみ」「大型ごみ」「燃えないごみ」を対象とした家庭系ごみの有料化を平成 27 年 4 月 1 日から開始した。

【一袋・一枚につき】

種別	単 位	料 金
指定ごみ袋	45ℓ	45 円
	30ℓ	30 円
	15ℓ	15 円
	7ℓ	7 円
大型ごみ処理券	1 点	300 円

10. ごみ減量市民会議

市民、事業者、行政の連携により、ごみ減量に向けた活動を実践し、「生駒市一般廃棄物（ごみ）処理計画（ごみ半減プラン）」に掲げる燃えるごみの半減目標を達成するために、平成 28 年 7 月 14 日に「生駒市ごみ減量市民会議」が発足した。（期間：平成 28 年 7 月から令和元年 7 月末まで）

第7章 その他ごみ処理に関する事業

1. ごみ集積場設置整備補助事業

ごみの散乱を防止することにより、地域の環境美化の推進を図りながら、公衆衛生の向上に資するとともに、分別排出の徹底及び排出モラルの向上を図るため、平成8年度から自治会がごみ集積場の改修・新設等の整備を行うために要する経費に対し補助金を交付している。また、平成24年度からは、折りたたみ式などの集積かごについても補助の対象として、事業の充実を図っている。

- 交付対象 ごみ集積場の新設又は改修実施自治会
- 補助金 補助対象経費の1/2（千円未満切り捨て）※限度額 30万円
- 交付条件 10世帯以上の利用

【実績】

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
件 数	349	266	298	260	161	116
交付額（円）	4,445,000	3,718,000	3,420,000	3,205,000	2,124,000	1,656,000

2. まごころ収集（高齢者世帯等の戸別収集）

平成20年9月から、ごみ集積所までのごみ出しの負担の軽減を図るとともに、安否確認を行い在宅生活の支援を図るため、高齢者・障がい者世帯への戸別収集を実施している。

- 収集世帯 1510世帯（平成31年3月末）
- 実施内容
 - ・ 収集頻度 週1回
 - ・ 収集品目 すべての分別対象ごみ
- 対象条件（条件1及び条件2のいずれかに該当）
 - ・ 条件1 65歳以上、要介護認定2程度以上、介護保険のホームヘルプサービスを利用
 - ・ 条件2 身体障がい者（難病患者含む）、知的障がい者、精神障がい者の各種福祉制度を受けている。ホームヘルプサービスを利用している。

【実績】

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
回 収 量(kg)	45,060	49,190	40,470	36,870	38,560	38,000
世帯数(3月末現在)	146	151	154	158	170	151

3. カラスネット貸与

カラス等によるごみ集積所の飛散防止の一環として、カラスネットを無償貸与している。貸与しているカラスネットは縦3m、横4m。

4. 各種看板貸与

ごみ集積所に設置する分別看板、不法投棄警告看板等を無償貸与している。

5. 不法投棄対策

不法投棄は都市美観を損ない、近隣の生活環境を著しく低下させることになる。このことから毎週1回のパトロールや市民の通報により現地回収にあたっている。また、不法投棄が多発する場所及び要望者に対し警告看板を貸与している。なお、平成27年度は、家庭系ごみ有料化の実施に伴い、不法投棄量の増加が見込まれたことから、パトロールを毎週2回実施した。

【実績】

年 度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
件 数	256	291	506	331	365	498
回収量(kg)	14,860	16,940	16,080	8,470	8,479	10,040

6. ごみ収集体験学習の実施

小学校における環境教育の一層の充実を図るため、直接学校に行き、小学4年生を対象に家庭ごみの正しい出し方の説明のほか、ごみ収集車を持ち込んでごみ収集体験学習を実施している。（平成17年度から実施）



第8章 し尿処理事業

第1節 し尿処理の概要

1. 現況

し尿くみ取りは、公共下水道の普及及び浄化槽の増加に伴い年々減少の傾向を示しているが、残存するくみ取り家庭は市内一円に散在しているため、単純に同業務の簡素化は望めず、作業の困難さは残っている。

【し尿くみ取り対象世帯 平成30年度】

全世帯数	くみ取り世帯数	残存率 (%)
50,171	771	1.54%

2. し尿収集及び運搬

し尿くみ取り式トイレ及び仮設トイレは、本市から委託された業者が収集、運搬を行っている。

収集は、定期収集を原則として月1回、月1回で足りないときは、月2回収集している。臨時収集に関しては随時行っている。当市で収集したし尿はエコパーク21に搬入され、浄化槽汚泥、生ごみと併せて処理される。

3. し尿くみ取りの申請と手数料

し尿くみ取りの定期収集を開始、中止及び変更する場合や臨時収集を行う場合は、環境保全課で申請を受け付けている。手数料は、定期収集、臨時収集、便槽種などにより次の区分に分けられている。

【手数料料金区分】（平成30年度）

区 分		便槽割（1基）	人頭割（1人）	従量制（18ℓ）
定 期	1回収集	普通便槽	257円	—
		特殊便槽	616円	
	2回収集	普通便槽	719円	
		特殊便槽	1,080円	
共同住宅・事業所		257円	—	102円
臨 時	臨 時			

【くみ取り件数の推移】

年 度		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
一 般 家 庭	普通便槽	242	228	221	213	200
	特殊便槽	575	550	518	487	471
	二回取り	87	89	83	86	90
	計	904	867	822	786	761
共同住宅		11	11	11	11	10
事業所		85	82	78	75	74
臨 時		97	109	94	99	91
合 計		1,097	1,069	1,005	971	936

第2節 エコパーク21の概要

生活から出るし尿や生活排水は、すべてが下水道によって処理されているわけではなく、これらの排水のうち、バキューム車で集められるし尿や浄化槽汚泥はエコパーク21に運びこまれている。エコパーク21で処理した水はこれまで川に放流していたが、平成29年3月27日に放流先を下水道へと切り替えている。そして放流先を切り替えた事に伴い、処理水の放流基準が変わったことから、処理設備の一部を停止させている。

残った汚泥は生ごみと混ぜて発酵させることでメタンガスが発生し、そのガスを使って電気や蒸気を作り出している。また、発酵を終えた汚泥は肥料として定期的に市民等に配布している。

1 建設概要		
(1) 施設新設工事	請負業者	三菱重工業(株)
	請負金額	3,480,750,000円(本体工事費)
	工期	平成10年3月20日～平成13年3月30日
(2) 下水放流のための施設工事	請負業者	三菱重工環境・化学エンジニアリング(株) 関西支店
	請負金額	1,263,600円
	工期	平成29年2月21日～平成29年3月31日
2 施設概要		
(1) 敷地面積	7,518㎡	
(2) 建築面積	2,252㎡	
(3) 処理能力	80KL/日(し尿10KL/日、浄化槽汚泥70KL/日) 生ごみ1.3t/日(最大2.6t/日)	
(4) 処理方式	高負荷脱窒素処理方式	
	①受入貯留設備	細目スクリーン+スクリュープレス (+遠心濃縮機:浄化槽汚泥のみ)
	②汚泥処理設備	メタン発酵+汚泥堆肥化
	③脱臭設備	高濃度臭気:生物脱臭 中濃度臭気:薬液洗浄+活性炭吸着 低濃度臭気:活性炭吸着
3 施設性能		
(1) 放流水質 (下水放流基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・水温 45度未満 ・アンモニア性窒素 60mg/l以下 ・水質イオン濃度 5以上9未満 ・生物化学的酸素要求量 100mg/l以下 ・浮遊物質 150mg/l以下 ・ノルマルヘキサン抽出物質含有量 鉍油類含有量 5mg/l以下 ・ノルマルヘキサン抽出物質含有量 動植物油類含有量 30mg/l以下 ・沃素消費量 220mg/l以下 ・窒素含有量 240mg/l以下 ・リン含有量 32mg/l以下 	

【し尿処理実績 平成30年度】

(単位:k0)

総量	し尿	浄化槽汚泥	平群町汚泥
26,506	3,736	20,478	2,292

エコパーク21では、平成28年4月から平群町汚泥の受け入れを開始している。